



港区新橋5-15-5  
交通ビル 3F

国労東日本本部

発行責任者 佐藤 勝雄  
編集責任者 伊藤 隆夫

2004年6月3日

第612号

定価 20円

組合員の購読料は  
組合費に含まれています

もう一人の仲間を国労に  
**国労加入を**  
大胆に訴えよう

# 「点」から「線」へ! 「線」から「面」へ! 組織強化・拡大に集中を! 国労東日本組織拡大対策会議開催

国労東日本本部は、5月15・16日の2日間、さいたま市において、全地方・地区本部・支部の書記長・組織担当者を召集し、組織拡大対策会議を取り組み、今日的な組織問題をめぐる情勢認識の一致から、当面する「組織拡大方針」を意思統一した。

組織対策会議は、藤野副委員長の座長挨拶に始まり、冒頭、東日本本部執行委員会を代表して挨拶に立った佐藤委員長は、「国労が主張している労使関係の正常化とは東労組流の癒着でもなければ、労使共同宣言を結び裏では恫喝で人事をろう断し会社に介入することでもありません。これまでの労務政策の誤りは中央線高架化に伴う線路切り替え工事における輸送障害を見るまでもありません。安全安定輸送の確立と利用者へのサービスに寄せられる信頼こそが『会社の健全な発展の基礎』であることは論をまちません」と、会社の誤った労使関係が今日の安全を脅かしていることを強調し、「運動は形や形式ではなく現実を的確にとらえ現状を改善していく生きものです。必要なことは、各級機関が個々の組合員の取り組みを掌握し組合員に運動としての確信を与え、組織全体に広げる指導力であるとおもいます」と、拡大を図る上での職場闘争・国労運動の重要性について参加した機関役員に訴えた。

会議はその後、各地方の報告を行った後、横浜・新橋支部、貨物職協、東京地本の組織拡大の取り組みの報告を全体で学びあった。

〈東京地本・笹原書記長〉



組織拡大については、2月11日に開催した地本全分会長会議で提起をして全支部オルグに取り組んでいる。東労組の状況はいまだに泥沼状態である。

一方、国労は労働委員会で次々と差別の実態が明るみになるなど、会社は国労との紛争状態を少しずつ考えざるをえないところにきている。展望を大きく広げるためにも、今年度中に組織拡大運動を国労全体の大きな流れにしなければならない。この闘いを進める中で総団結が築けるものと確信している。

続いて、伊藤書記長より東日本本部としての「組織拡大方針」の提起を行った。

これをふまえ、①渡邊秋田地本書記長、②大沼仙台地本書記長、③石川新潟地本組織部長、④尾臺高崎地本組織部長、⑤伊藤長野地本副委員長、⑥難波神奈川地区本部書記長、⑦町田東日本本部特別執行委員、を各座長に選出しての分散交流会で一日目は終了した。

国労東日本「組織拡大方針」(一部抜粋)  
国労東日本組織拡大に向けて

JR発足17年間を経て差別攻撃の連続の中でも組合員・分会・支部役員の奮闘によって一定の組合員を維持している。しかし、昇進受験時期になると「昇進」を「エサ」に脱退が発生する状況に対して、今日まで労働委員会を通じて差別の実態を明らかにしてきた。しかし、JR東日本は今日まで「労使関係」「差別解消」を変更する姿勢を見せていない。～国労東日本は「労使関係の正常化」に向け、経営協議会・安全問題などの交渉の場で～考え方・姿勢を明らかにしてきた。～JR東日本会社の労務政策の転換と正常な労使関係の確立を図るために、職場から「要求」「組織」の多数派をめざし「仕事総点検運動」を、今後も全ての職場・組合員が一丸となった取り組みによって「差別の解消」「組織の拡大」への「展望を作り出す」と確信している。

〈横浜支部・姉崎書記長〉



浦和電車区7名逮捕問題と同じ問題が、支部内の職場でも起きたことが発端となり、組織対策行動委員会を結成してきた。月1回のペースで開催し、認識の一致から問題を職場に返すことをやってきた。新たな課題としては、配転・出向など。差別を是正させるために受験をしようと思っ統一。合格率は上がっていないが、差別の実態を労働委員会で訴えてきた成果が少しずつ表れてきている。

〈東京貨物協議会・中曾根事務長〉



会社は、外注化攻撃により多くの組合員が出向に出され、同時に、経費節減のために徹底したコスト削減をしている。こうした中で、反合理化・反差別の闘いを含めて、こちら側の構えの不十分性・分会運動のあり方など議論。

分会運動の活性化と組織拡大の闘いをどう結びつけるかが課題。青年対策では、今の青年労働者との意見交流の場は大切。拡大については機関と分会のつながりが大切。

〈新橋支部・清水書記長〉



1年間の具体的な目標を決め、春闘期の総行動を1つの支部運動のバロメーターと位置付け取り組んでいる。職場は、合理化が進む中で責任が増大し、一人一人が追い詰められている。その意味では、仕事総点検運動をどう組織問題につなげるかが課題。職場の問題、国

労から他労組にどう広げるか? ややもすれば差別だけでおわるが、少しずつ改善している姿はあるし、ここを柱に大胆に国労を呼びかける時期に来ている。



二日目の会議は、全体討論から再開した。全体討論は、本部鈴木青年対策委員長が口火を切り、全国の青年対策運動の現状、とりわけ例年取り組んでいるJR各社の「入社対策」の報告を行い、青年対策運動への理解と協力を訴えた。さらに、青年部と婦人部より、今のそれぞれ



の置かれている実態と、拡大に向けた要請が行われ、参加者の気持ちを引き締めた。その後、7つの分散会よりの報告、書記長のまとめへと移り、最後に委員長の団結ガンパローで、組織拡大に向け全力を挙げることを再確認した。

## 「カベ」を越えよう

### 「組織拡大対策会議」書記長集約

2日間、ご苦労様でした。

7つの分散会で討論を頂きました。中身は、やはり私も提記させていただいた今日の情勢の認識という部分で、国労総体の今日までの取り組みの中で一つは「カベ」という問題、もう一つは「守る」という問題に対して「越えられなかった」という報告がされていました。この問題に対して青年部の皆さんからの発言、また分散会での討論リードをいただく中で、少なくとも、今日集まった国労機関役員の認識として、情勢の認識と「越えよう」ということが共有できたと思います。

もう一つは、職場の運動の重要性が多くの方から言われ、東労組・貨物労組ともに平成採用の組合員は国労の運動を見ていると言われました。

東・貨物の入社式行動に私も始めて参加しましたが、今日まで取り組んできた「入社式行動」を「点」とするならば、それ以降職場の皆さんが配属された平成採用者を受け入れて色々な人間関係を作っていく、これが「線」になっているんだろうと思います。そして、各地方からの報告にある取り組みが「面」として広がっているんだろうと思います。

ただ問題は、活動の活性化と言いますか、特に活動の中心となる分会とそれを支える支部の活動で、情報を出す、会議をやる、動員をするという点でどうだったのかを真剣に点検して頂きたいと思います。今日は分会を預かる支部書記長が中心の集まりですから、それぞれの活動の現状を踏まえて地本・支部が分会の活動をどうフォローして行くのか。分会の活動は様々ですからマニュアルというレベルではありませんので、是非、皆さんの力で分会活動の活性化をお願いしたいと思います。

その意味は、委員長があいさつでも触れましたが、2月10日以前からその動きが見えていたと思いますが、やはり、東労組

は基本の「基」を無くした2月10日の「手打ち」の中であり本社との間で一定の整理がされているんだと思います。ですから、分割民営化以降、東労組は職場の中で絶対的な力と言うか、恫喝も含めて会社を凌駕するまでの力というものがありました。いま報告されている事によりますと、いまは管理者の方が力を持ちつつあるという事です。そして、新橋・清水書記長の報告のポイントですが、これからは「競争」と言う事がどこの職場でも当たり前前に発生する。要するに、今日までの歴史を見るとき、国鉄・JRを通じて労働組合は何らかの形で業務への影響力を持っていた。国鉄当時は国労で組織率は70%近くあった。JRでは東労組。しかし今、この2004年を見るとき、今は管理者自らが力を付けようとしていることだと思えます。競争という手法の中で彼らが管理していることとしている、と分析してもいいのだろうと思います。その結果は、東労組の中では自分の身は自分で守ろうという人が出てくるでしょうし、他人の事は干渉しない、自分だけしっかりやればいいんだ、そして、上手にやっ

て行こうと言う事だと思えます。ですから、そこに競争がある限り「労働組合とは何か」が問われる職場状況が今後更に広がって行くという事です。ですから、ぜひ清水書記長の報告を一読いただいて、そこに拡大の条件が内包していると思うわけです。そして、その中から分会活動の活性化がいかに重要か、世話役活動がいかに重要か、そしてどのタイミングで前に出ると言う事だと思えます。

また、各地方でも組織対策会議をもっていただいて分会・支部と連携を図り、面で守って行くという事にならなければいけないだろうと思います。

そして、守ると言う事で言いますと、いま、腹をくくって来るという人は差別の問題を含めて東労組じゃもうやって行けないと腹を決めたという事です。ですから、ぜひ、そういう部分では私たちが一步引かないで、一步前に出て、タイミングを探っていただきたいと思えます。

私としても初めての組織拡大会議で、色々勉強をさせていただきましたが、やはり、今後の国労組織の展望を持って拡大の条件はあるんだと決意を新たにしていますので、お集まりの皆さんに、ぜひ、地方・支部に持ち帰って肉付けをしていただき、組織の活性化と組織の拡大に取り組んでいただきたいと思えます。

やはり、東労組は、今の現状で行くとそろそろ締めつける力が衰える状況にあります。提案でも申しましたが、2月23日の書類送検の中で彼らはかなり躊躇している実態が片方ではありますので、これに自信を持って進めていただきたいと思えます。

## 組織拡大対策会議

国鉄労働組合東日本本部



### 訂正とお詫び

「国労東日本、第611号(5月14日付)」の「宮城地労委勝利命令報告集会開催」の「命令解説」の「①不当労働行為の発覚から1年以内という会社側の主張を認めたこと」を、以下のように訂正いたします。

「組合側として91年2月1日時点に遡って是正を図ることを求めてきましたが、地労委は、昇進試験制度は各年度ごとに完結する1回限りの独立した行為」と認定し、申立以前の年度の昇進試験については、除斥期間を経過しているものであり、遡って是正を図ることができないと、組合側の継続した行為という主張を斥けたこと。



僕のがん保険は、  
病気にケガも保障する。  
しかも、保険料は生上らない。保障が生づく。  
がん保険を運ぶならアメリカンファミリーです。

●詳細はパンフレット、ご契約のしおり・約書をご覧ください。

〈引受保険会社〉  
自信があります。私の医療保険。

**AFIAC アメリカンファミリー生命**

東京第三営業本部 第三支社 ☎03-3344-1889  
〒163-0456 新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビル

■募集代理店

**アベニール 株式会社**

TEL 03-3437-6810 FAX 03-3437-6822

〒105-0004 港区新橋5-15-5 交通ビル3F

AFN広告-2003-018-0402032 2月21日